

春岡村の伝説

・春岡村に伝わる物語七・

●寅子伝説 おまけ

丸ヶ崎新田に子繪（繪）（こなます）神社があります。ギヤラリー喫茶温々の並び、一本の桜の古木が目印の薬師堂の脇の小さな祠です。これは昔、寅子の霊が夜な夜な出て、その近在に祟りをなすので、人々がスツカリおそれをなし、寅子の霊をここに祀ったのだそうです。

社はもともと河川改修前の綾瀬川にかかっていた旧関橋（子繪神社の脇の小道の突き当りにあった）の南岸にありました。江戸時代に綾瀬川の向こう側、馬込村辻谷の者がやって来て、社を辻谷にある寅子の墓畔（4メートルを超す寅子石と呼ばれる板石塔婆が建つ共同墓地）に移しました。ところが、この社が幾度となく洪水で流されては再び関橋の南岸にあり、やはりこの土地に因縁があるのだろうということで、以来現在に及んでいます。

明治末期、神社合祀に伴い、明治41年に丸ヶ崎氷川神社に併祀されましたが、新田部落にたびたび疫病が流行し、これは子繪様を移した祟りだ、ということ、昭和12年現在の稻荷社内の子繪大神の遙拝堂として復活し現在に至っています。

子繪神社の祭礼は毎年7月25日です。この日、新田の人々は朝の8時に集まり、子繪大神と書かれた大きな幟を建て、白岡から来る神官による祈禱が行われ、寅子の霊を慰めています。（見学可！）

子繪社からは円空仏が発見されています。高さわずか21.2センチの菩薩型座像です。元禄2年頃、円空は日光御成街道を

通って日光に巡拝の途中、宝積寺や島町の薬王寺に立ち寄っています。寅子の話を聞いた円空が供養のため彫っていったのかもしれないね。

馬込村字中（現・岩槻区馬込）に辻谷の寅子墓地の菩提寺である満蔵寺があります。伝説によると、戦国時代に寅子の家は災害のため廃滅し、寅子の菩提を弔う者もないようになろうとしたのを、かつて寅子の家の番頭をしていた河原氏の長子満蔵が悲しんで、その近在の山林に入り、一字を建てその冥福を祈ったので、その名をとって満蔵寺と名付け現在に及んでいるのだとか。残念なことに明治18年の火災ですべての記録は灰燼に帰してしまいました。

今でも辻谷の寅子の墓地では毎年3月8日12時より辻谷の女性たちが集まり、満蔵寺住職による供養「お寅御伽」（おとらおと）が執り行われています。（見学可！）

参考資料 『思い出の春岡』 銭場佐一郎

『埼玉史談』 第33巻第4号通巻208号

金井塚隆治寄稿 『子繪神社考』

『埼玉史談』 第64巻第1号通巻326号

赤石光資寄稿 『寅子石の供養』

（平山由喜）

